
目次

はじめに	iii
「方言漢字」とは	vi
凡例	xii
見出し語一覧	xiv
方言漢字事典	1
方言漢字地図	233
主な参考・引用文献	234
総画索引・部首別索引・音訓索引	256
写真提供者一覧	271
編著者・執筆者紹介	272

見出し語一覧

「あ行」	1	2	5	6	6	6	8	9	11	11	13	14	17	18	20	22	23	25	26
坏 (あくつ)	1	2	5	6	6	8	9	11	11	13	14	17	18	20	22	23	25	26	
安 (あけん)																			
疇 (あぜ)																			
疇 (あぜ)																			
厩 (あまのはしだて)																			
厩 (あまのはしだて)																			
厩 (あまのはしだて)																			
厩 (あまのはしだて)																			
厩 (あまのはしだて)																			

「か行」	28	29	31	33	36	39	40	42	43	44	45	46	48	51	53	54	56	57	58	60
噓 (か)	28	29	31	33	36	39	40	42	43	44	45	46	48	51	53	54	56	57	58	60
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				
噓 (か)																				

「サイ」	64	64	66	68	69	72	74	75	77	79	81	82	84	85	87	90	92	96	99	100	102	103
噓 (サイ)	64	64	66	68	69	72	74	75	77	79	81	82	84	85	87	90	92	96	99	100	102	103
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						
噓 (サイ)																						

「た行」	108	109	113	117	118	121	124	127	128	129	130	134	135	140	141	142	144	147	148	149
噓 (た)	108	109	113	117	118	121	124	127	128	129	130	134	135	140	141	142	144	147	148	149
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				
噓 (た)																				

「は行」	160	161	164	164	164	172	173	175	176	177	178	180	181	182	183	184	188	189
涇 (ぬた)	160	161	164	164	164	172	173	175	176	177	178	180	181	182	183	184	188	189
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		
涇 (ぬた)																		

「ま行」	191	194	196	197	199	204	208	210	212	215	219	221	223	224	227	231
價 (ほとけ)	191	194	196	197	199	204	208	210	212	215	219	221	223	224	227	231
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																
價 (ほとけ)																

「や・ら・わ行」	106	138
愛知県岡崎市の「材」	106	
コラム1		
コラム2		
宇都宮の「都」	138	

な

「**瞰ノ間**」(秋田県南秋田郡五城目町)、「**瞰下**」(愛知県北設楽郡設楽町)、「**比地長瞰**」(香川県三豊市高瀬町)もある。

姓には、「**瞰**」「**高瞰**」「**長瞰**」「**浜瞰**」などがある。「**瞰**」の字形について一時期、傍の部分「ヌヌヌ」ではなく「ヌヌヌ」と書くのが正しいという言説が話題になったが、文字デザイン差であり、「ヌ」と「又」のどちらを書いても誤りではない。

〔参考文献〕『角川日本地名大辞典』大阪府
〔小林〕

水部
汙
6画
JIS第2水準
ぬた

高知県に見られる地域文字。

「**汙**」は、山梨県の「**堡**」(↓152頁)と同様に、湿地を意味する「ぬた」に対する会意による造字。この「ぬた」は体をくねらせてはい回る意の「ぬたくる」と同源。「**沼田**」「**沼地**」に通じる(井手至『遊文録 国語史篇』1など)。

南国市に岡豊町笠ノ川字「**汙ヶ谷**」、土佐清水市に

た頁に、「高知県高岡郡窪川町仁井田通称**汙川**」とあり、その出現が確かめられた。

現在は高岡郡の四万十町となった窪川町役場税務課および町民課での聴取調査や現地での使用状況の確認の結果によると(一九九七年)、「**汙ノ川**」の「**汙**」の正式な字体は部首が「シ(さんずい)」ではなく「ノ(にすい)」の「**汙ノ川**」である。また、その字体も傍の「**土**」の右上に「ノ」が付されたものもあった。JIS規格票や漢字辞書などにある「**汙ノ川**」などの字体、表記はこの誤りだったようであるが、「**汙**」がJIS漢字になく不便であることなどにより、地区総代と窪川町役場が相談し、平成一四(二〇〇二)年一月一日に地名を「**汙ノ川**」に改めたとされる(大原望『和製漢字の辞典 二〇一四』稿者による町役場への照会など)。より古くは「ぬた」に「**油**」(漢字では音はチュツ・コツで、「水の流れるさま」や「水の静かなこと」の意)を当てた文書もあり、字体は「**汙**」や、「**汙**」の傍「**土**」の右や右上に点が付くなど定まらずに二転三転してきた。

「**汙ノ川**」が現れる資料としては、天正一六(一五八八)年「**久礼分地検帳**」が古く、「ヌタノ川村」(『平凡社日本歴史地名大系 高知県の地名』と片仮名表記であり、

な



表示 大津字「**汙ノ森山**」、高岡郡に日高村鴨地字「**赤汙**」、窪川町仁井田

「**汙ノ川**」、四万十町替坂本字「**汙岡山**」があり、同町には「**汙ノ川遺跡**」もある。梶原町に梶原字「**汙尾東山**」「**汙尾西山**」があり、同町に「**汙尾橋**」がある。越知町に佐之國字「**汙久保**」、同町には「**赤汙**」という小地名がある。幡多郡に三原村皆尾字「**汙尾山**」、十和村昭和字「**唐汙山**」がある。高岡郡の「**赤汙**」は安土・桃山時代の天正一八(一五九〇)年「能津村地検帳」に「**アカノタ村**」と記されている(『平凡社日本歴史地名大系 高知県の地名』。江戸中期の『土佐州郡志』には「**黒汙山**」がある。ほかに、小字の中には国字を熟合した「**汙峠**」もある(『角川日本地名大辞典 高知県』)。「**汙**」はJIS漢字制定(一九七八年)の際に参照された行政管理庁(現・総務省)の「対応分析結果」(一九七四)によると、国土地理協会の一九七二年版『国土行政区画総覧』に一回だけ出現したために、JIS第2水準に採用されたものである。加除式のこの資料をさかのぼって調べると、一九七七年三月に除去され

天正一七年の「**長宗我部地検帳**」には「**汙川**」が使用されているという(菅原義三編『国字の字典』)。しかし、天正一六、一七(一五八八、八九)年の「**仁井田郷地検帳**」(『長宗我部地検帳 高岡郡下の三』)に「ヌタノ川」「ヌタツホ」「ヌタノヲ谷」とある。江戸前期の寛文七(一六六七)年「**郷村石付**」には「ぬたの川」、ほぼ同時期の「**元禄地払帳**」には「**油ノ川村**」、江戸中期の『**土佐州郡志**』には「**汙之川村**」とあるという。江戸後期成立の地誌『**南路志**』(一八一五。高知県立図書館一九九二)では「**油野**(**汙力**)**川村**」(国立国会図書館蔵の写本巻二六では「**江川村**」「**江ノ川村**」)、明治四(一八七二)年には「**汙野川**」とも書かれた(『角川日本地名大辞典 高知県』)。現地では「**汙**」と「**汙**」という字形の似通った字の誤植が見られた。他にも「**汙**」と互いに混じったケースもある。

なお、辞書には室町初期写の『**伊呂波字類抄**』(十卷本、大東急文庫本影印)のように、「**汙**」に「ヌル」と訓を付すものがあった。「**塗**」の異体字かと思われる。鎌倉時代以降の抄物書き(仏書などで用いられる漢字の略字体)に、「**淨土**(**浄土**)」を略して合体させた字として「**汙**」が見られたが、字体の衝突を起こした別

兵庫県丹波篠山市には「ゆり」に「段」を当てる地(中字「段ノ坪」)もある。明治一八(一八八五)年丹波国多紀郡中村一村全図には字「段」があり、丹波篠山市役所や法務局にある字限図には「ユリ」と「段」という表記が混在して見られる(鮎持一幸氏教示)。現在同字は丹波篠山市中字「ユリ」と表記されるが、字「ユリ」から分割されたと考えられる字「段ノ坪」には「段」が用いられている(鮎持一幸氏教示)。

岡山県八束村にも「岬」「岬林」などがあつたが(『角川日本地名大辞典岡山県』、「八束村史」)役場農林課(一九九三年回答)によると、読みは「なる」と思われるとのことである。「岬」という方言漢字も小地名に見られる。

佐藤新『日本地名盡所沢篇』Iでは、「地名解釈の爲の新造字(語)」として「岬」ひら。傾斜地。坂。」として独自の用法で用いる。

なお、「坪」で「つば」と読むのは奈良時代からの国訓であり、「岬」で「ひらめ」は漢字義だが、「岬」で「なる」(前述)、「坪」で「ならす」(福山藩、広島藩、長州藩などの文書にある)、「坪」(漢字では音はホウ、「水」の勢いのさかんさま)の意 ↓「坪」140頁)で「なぎ」「ひら」(愛知県の地名に「浮野」、群馬県

の姓・地名に「浮川」がある)など、「平」は日本で国字、国訓を生み出す際に活用されてきた。「伊勢」の「伊」も「イ(にんべん)に平」という解釈が中世に見られ、また平家の落人が姓に用いたという伝承も生まれた。

「岬」は転用例として、オンライン小説の登場人物名(河奈麻岬など)での使用も見られる。「岬」を「岬」とする誤入力も見られる。

中国でも、『隋書』地理志(清)徐文靖『管城碩記』所引に「岐岬県」があるが、『隋書』の原文の「岐坪」の同化形のようなのである(『中国歴史地名大辞典』など参照)。また、「岸」の崩れた形としても見られた。

〔笹原〕

〔参考文献〕WEB「稀少地名漢字リスト」京都府／柳田国男『分類山村語彙』／松尾俊郎『日本の地名』／鏡味完二『日本の地名』／笹原宏之『日本の漢字』／塚田雅樹「登記・供託オンライン申請システムに現れる地名を表すUnicode未符号化文字」『日本漢字学会報』／田中利樹 京都府立大学卒業論文「方言漢字の研究」(二〇二二)

門部 閑

ゆり どんど ゆる *ロウ
JIS第2水準

宮城県などに見られる地域文字。

名取市に「閑上」地区がある。平成二三(二〇一一)年三月一日に発生した大地震による大津波によって甚大な被害を受け、復興が進められた。その後、令和四(二〇二二)年一〇月に大震災からの復興を祝う「閑上復興まつり」が行われ、伝統の「閑上太鼓」が披露された。石巻市には、桃生町太田「閑前」(「閑」の字訓は地元では「ゆり」だが、ゆるぎの意か「ゆるぎ」とする資料「菊池一九七〇など」もあった)、「閑谷地」という小字がある。地元では「閑谷地」はかつて海であったと伝えられ、またそこに流れる川が氾濫したことがあるという。



「閑上」地区に多く見られる「閑」という字は、「従来の漢字にはない文字で、所謂国字」「仙台地方だけの天下一品の珍文字」と

されていた(菊池一九七〇)。

江戸前期に陸奥国仙台藩の藩主であった伊達綱村が元禄一〇(一六九七)年に落成した仙台の大年寺に参拝に行った際に、山下に目に入った「ゆりあげ浜」に漢字の表記がないと知って、山門の中に海水が見えた風景から「閑」の字を造ったものとする伝承がある(菊池一九七〇では「昔、仙台の藩主」とする)。赤貝で全国に知られた宮城県の閑上に伝わるのどかな話として、同市も類話を『名取市史』(一九七七)や公式サイトなどで紹介しており、さまざまな媒体を通して世に広まっている。

「閑上」の地名自体は、奈良時代の養老三(七一九)年ないし貞観一三(八七二)年に、海岸に観音像がゆりあげられたことに由来するとの伝承もあり、その元となった話は江戸中期に仙台藩の儒者・田辺希文が著した地誌『封内風土記』(一七七二)巻五(早大蔵写本巻三)に載る。戦国時代の文禄五(一五九六)年の伊達家文書の名寄帳に、「ゆりあげ浜」と文字の記録が現れる(『角川日本地名大辞典宮城県』)。

しかし、「閑上」の表記が綱村による創作という話は、近代の文献に現れるものである。「閑」の字の作者は、初代仙台藩主の伊達政宗(一五六七〜一六三六)

総画索引

- (1) 本事典の見出し字のほか、本文中に現れる方言漢字の類も適宜収録し、総画数順に配列した。同画数内の漢字では部首内画数の順に配列した。
 (2) 見出し字として掲載されたページは*印で示した。

【3画】

兀 207
 广 *194-196

【4画】

屮 69, 109, *121-126
 屮 xii, 123, 126

【5画】

冫 151
 匚 *99, 100
 冫 *14-16
 冫 *196, 197
 冫 148
 冫 123
 冫 *84, 85
 冫 *84, 85

【6画】

冫 179
 冫 *1, 2
 冫 171, *197, 198, 207
 冫 *2-5
 冫 123
 冫 123
 冫 123, 124, 126
 冫 123
 冫 123
 冫 xii, 165, 170, *184-187, 207
 冫 185
 冫 167-169

扌 85
 扌 *14-16, 136
 扌 26
 扌 132, 133
 扌 *150-152
 扌 169
 扌 231, 232

【7画】

扌 170
 扌 4
 扌 169
 扌 169
 扌 170
 扌 *106, 107
 扌 106, 107
 扌 130-132
 扌 *231, 232
 扌 44
 扌 123
 扌 *66-68, 130

【8画】

扌 *31, 32, 34, 165, 174, 184, 207, 208
 扌 166
 扌 123
 扌 173
 扌 188
 扌 150, *152-155
 扌 31, 171, 186, 207
 扌 20, *48-51, 83
 扌 69, 123

岫 70
 岫 72
 岫 *164-168, 171, 174, 184, 207, *221, 222
 岫 169
 岫 72
 岫 165-167, 222
 岫 xii, 182
 岫 165-168, 221, 222
 岫 218, *224-226
 岫 154, 155
 岫 *181
 岫 186
 岫 165-168
 岫 72
 岫 226
 岫 106, 107
 岫 132
 岫 132
 岫 *68, 69, 72
 岫 *77-79, 191
 岫 *140-142, 226
 岫 151
 岫 *44, 127
 岫 *11, 12
 岫 6
 岫 71
 岫 130, *177, 178
 岫 226

【9画】

浴 71, 72
 啜(いかん) *9, 10, 24

啜(おとな) *26, 27
 啜 *74, 75
 啜 *74-76
 啜 31, 32, 34, 35, 208
 啜 *32-36, 165, 174, 184, 208
 啜 69, 73, *109-112, 121, 125, 126
 啜 170
 啜 182
 啜 199, 200
 啜 204
 啜 82
 啜 22
 啜 170
 啜 170, 171
 啜 171
 啜 51
 啜 36, 38
 啜 85
 啜 25, 26
 啜 114-116
 啜 114
 啜 *130-133, 162
 啜 6
 啜 19
 啜 152
 啜 *13, 14, 130, 133

【10画】

啜 *56, 57
 啜 69-72, 123
 啜 *102, 103
 啜 xii, 170
 啜 31, 69, 70, 72
 啜 172
 啜 170
 啜 *36-38, 115
 啜 *117, 118
 啜 162
 啜 169

啜 113, 114
 浴 72
 啜 6
 啜 *43, 44
 啜 160
 啜 18
 啜 23, *42, 43, 185, 187
 啜 *219-221

【11画】

啜 *17, 18
 啜 140, *141, 142, 144
 啜 103
 啜 206
 啜 *60-63, 130
 啜 170
 啜 22
 啜 22
 啜 170, 186
 啜 171
 啜 123
 啜 xii, 165, *172-174
 啜 170
 啜 *25
 啜 *54, 55
 啜 113
 啜 143
 啜 *90-92
 啜 141, 142, 144
 啜 229
 啜 22, 23, *52, 53
 啜 *160-164
 啜 *100, 101
 啜 80, *215-219, 229
 啜 98
 啜 216, 229
 啜 70, 71
 啜 *69-72
 啜 *64
 啜 *147, 148

【12画】

啜 61
 啜 199, 206
 啜 206
 啜 130, *176, 177
 啜 176
 啜 21
 啜 72, 169
 啜 170
 啜 *51, 52
 啜 *135, 136, 230
 啜 226
 啜 161
 啜 170
 啜 18
 啜 *45, 46
 啜 *82-84
 啜 *113-117, 182
 啜 113-116
 啜 114
 啜 *142-144
 啜 131
 啜 *161-163
 啜 174
 啜 142
 啜 *92-96, 191
 啜 190
 啜 190
 啜 135, 136
 啜 *208-210
 啜 69, 72
 啜 9, *174, 175
 啜 *8, 9, 176
 啜 *29, 30
 啜 *39, 40
 啜 72, 172
 啜 103
 啜 101
 啜 98
 啜 99